

## 取組 3 女性研究者の積極採用と上位職登用

### ① 女性教員ポストアップ

広島大学では第3期中期目標・中期計画において、女性教員割合20%、女性管理職割合20%を目標に掲げており、また、本事業において、女性上位職(教授・准教授)の割合を20%にすることを目標に掲げている。2016年(平成28)年度末の女性上位職(教授・准教授)の割合は12.8%であり、目標値達成に向けての戦略的人員措置として女性教員8名のポストアップを決定した。

|      |  |
|------|--|
| 募集内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○准教授又は講師へのポストアップを推薦する助教 4名程度(女性)</li> <li>○教授へのポストアップを推薦する准教授又は講師 4名程度(女性)</li> </ul> <p>※選考方法:候補者推薦型</p>   |
| 選考   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●部局等の長は、教授会等の業績審査を経て、選考候補者を特定した推薦形式により人員措置申請書及び教員選考報告書等を提出。</li> <li>●全学の人事委員会及び男女共同参画推進委員会において、人員措置の可否及び候補者の適否について審議の上、学長が役員会の議を経て決定。</li> </ul> |

### ② 「女性限定」公募の実施

広島大学では、教員人事の全学一元管理の下、多様な人材確保への取り組みを配置の観点の一つとして捉え、「女性教員」枠を設ける等、戦略的に19ポストの措置を行った。また、教員採用におけるポジティブアクション(業績・評価が同等と認められた場合は女性を採用)の促進を2017(平成29)年度も継続して実施した。

### ③ 女性活躍推進研修

■日時:2017(平成29)年9月1日(金)9:00~16:00

■場所:デルタ工業株式会社 講堂

■参加者:デルタ工業株式会社 女性社員16名

■研修内容:自らの能力の現状や仕事観・志向性を把握し、また、目指すべきキャリアビジョンを明確にし、その実現に向け、能力開発の推進を図った。

#### <参加者の声(抜粋)>

- 自分自身の仕事に対する考え方や大きい意味での人生において、価値観等を再認識することができ、今後の自分の働き方を考えていくきっかけになった。
- 他部署の同年代の人がどんな仕事をしながらどんな考え方をしているのかを知ることが出来たことに加え、今後の自分のキャリア形成の参考になった。また、ライフステージの違いが仕事への向き合い方の違いになってことを強く感じた。今回、上司から自分へ期待されていることを知る機会にもなったので、今後のキャリア開発とスキルアップのために活かしたい。
- 特に育休復帰後は、「時間がない」「自分のペースで仕事ができない」「やるべきことが多すぎる」など、言い訳や不満を心に抱えがちだったが、「じゃあどうすればいいのかわ」という点に視線を移して、時間的な踏ん張りがきかない分、従来のやり方を改善して工数低減を図る等仕事の質を高めて対応していきたいと思う。

## ④ 女性活躍促進セミナー

- 日時: 2018(平成30)年2月21日(水) 15:30~17:00
- 場所: ホテルグランヴィア広島
- 講師: 松原 光代 PwCコンサルティング合同会社 主任研究員/マネージャー
- テーマ: 経営戦略としてのダイバーシティ推進
- 参加者: 30名(実施機関, 産学官ダイバーシティ推進協議会メンバー機関の役員・管理職等)
- 内容: ダイバーシティ推進が求められる我が国の社会・経済的背景や推進していく上での各種課題と管理職のマネジメントの重要性に関して意識啓発を行った。



### <参加者の声(抜粋)>

- とてもよかった。人事異動の中身に活かしたい。
- 多くの調査資料を効果的に使用してロジカルな説明で判り易かった。
- 企業として、制度の整備ばかりに目が行きがちだが、マネジメントが重要である事に気付かされました。男女のキャリア意識の違いを踏まえて自社で活かしたい。
- 男性も女性も主体性が大切だと思いました。これまで以上に男女同条件で対応する。
- マネージャーという役割の重要を感じた。生かすもところすも上司だしである。マネージャーの育成においてポイントとなることを知ることができたので、自社の研修にとり入れたい。
- 数値データにより男女の意識差と経年変化を分かりやすく知ることができた。キャリアアップを自分でとりに行く姿勢が女性には欠けているということ、家庭マネジメントの大変さは自らの実感と重なった。



セミナーの様子

## ⑤ 女性学生・女性若手研究者のための業界セミナー

- 日時: 2018(平成30)年1月25日(木) 12:50~14:20
- 場所: 広島大学中央図書館ライブラリーホール
- 講師: 須田 久美子 (鹿島建設株式会社 土木管理本部土木企画部 ダイバーシティ推進担当部長)
- テーマ: 女性土木技術者の働き方 -ゼネコンの場合-
- 参加者: 151(41)名[学生:144(37)名, 教職員:7(4)名]カッコ内は女性の参加者で内数
- 内容: 講師の須田氏の経歴を振り返りつつ、自身のいかに仕事と結婚・出産・育児などを両立させてきたか、女性がライフイベントと仕事を両立させるためには何が大切か、業界での現状等を語り、女性が社会で活躍することについて考える貴重な時間となった。

### <参加者の声(抜粋)>

- 女性の少ない分野での就職はやはり勇気が必要だと思います。須田さんの話を聞いてから、実際は思ったほど難しくないかもしれないというふうに向向きに考えられました。
- 須田さんの話を聞いて、建設業界には女性が活躍できる職種が多数あり、女性の就職を歓迎することをアピールしていることがわかりました。
- 職業についての認識が広がりました。工事現場でも女性がいること、しかもしっかりと一人前の技術者であることに尊敬な気持ちが沸いてきました。
- 阪神淡路大震災といった大変な時期でも、多くの方々からの協力と自分の努力により、育児と仕事を両立させることができた、というのは興味深い内容でした。



## 6 キャリアスタート支援セミナー

### <マツダ株式会社>

- 日時:2017(平成29)年12月21日(木)18:00~19:30
- 場所:広島大学工学部105講義室
- 内容:広島大学の女性の学生向けにマツダ株式会社で働く広島大学の女性の卒業生を講師としてセミナーを実施した。
- 参加者:14名(学生9名、教職員5名)

### <参加者の声(抜粋)>

- 今後の就職活動の参考になる場を設けていただきありがとうございました。非常に有意義な時間を過ごすことができました。もし可能であれば、マツダだけではなく他の広島企業についても同様に今回のような会(OG訪問)を開いていただけると様々な会社を知るきっかけになりますし、働く女性の意見が聞けてうれしいと思います。



セミナーの様子



## 7 企業訪問 バスツアー

女性が活躍する様々な企業を訪問し、女性社員との懇談・ディスカッションなどを体験することで、女性の大学院生のキャリアスタートを支援する。実施内容は次のとおり。

### <大塚製薬株式会社>

- 日時:2018(平成30)年1月12日(金)8:05~20:00
- 内容:施設見学(能力開発研究所), 会社説明, 女性研究者から仕事内容の紹介, 女性研究者との交流会
- 参加者:14名

### <参加者の声(抜粋)>

- いろいろな部署のキャリアの違う先輩社員の話を聞いて、製薬会社の中の研究職のイメージがより具体的に掴むことができました。研究職で働く上で大切なことが、研究に対する”好奇心”や”熱意”であると分かり、大変勉強になりました。
- 企業の研究者として必要なことを知ることができてためになりました。自分の将来について考えるきっかけができました。
- 女性研究者に自分が思っていたことを直接聞くことができ、生の声を聞くことができて良かった。
- 進学するか就職するか迷っていましたが、その判断に役立ちそうです。また研究に対する意識も変わりました。
- 直接お会いして聞かなければわからない、社員の方の人柄や仕事のやりがいを知ることができたので、自分が行きたい企業とはどんなところか?なぜそこに行きたいと思うのか?を考える機会になりました。自己分析にもつながったと思います。
- 社員の方と直接話す時間を多くとってもらえた点がよかった。また、女性に限定することで、女性ならではの疑問点を聞きやすかったのもよかった。



施設見学



女性研究者との交流会

## <マツダ株式会社>

■日時:2018(平成30)年1月18日(木)8:50~16:00

■内容:会社概要の紹介,女性社員との懇談,マツダミュージアム・工場見学

■参加者:22名

### <参加者の声(抜粋)>

- 今まで経験した就活関係のイベントの中で一番良かったです。和やかな雰囲気ので何でも聞きやすい環境だったので知りたいことも知れ、企業研究が深まりました。
- 実際に働いている女性社員の方のリアルな体験や、自分の聞きたいことに対して返答をいただき大変良かったです。
- 工学の内容を知らなくても技術職になることができるというお話を聞き、今まで技術職はあきらめていましたが考えが変わりました。
- 企業見学会を通して、マツダという企業は一体どういう企業なのかを今回の見学で体験できました。企業の雰囲気などを分かるために実際に体験したほうがよいと思いました。
- 働くことと研究することは、その姿勢について地続きの部分が大いにあると感じました。ますます研究をがんばりたいです。
- 今まで学んだことが、実際に販売されている車のいたるところに活かされていることを知り、学習意欲がわいた。



集合写真



女性社員との懇談会



マツダミュージアム見学

## 8 インターンシップ

本事業では、女性の大学院生および女性の若手研究者を対象としたインターンシップ実施のための支援を行っている。平成29年度の実績は以下のとおりである。

| 区分 | 所属                                  | 派遣先          | 実施期間                       |
|----|-------------------------------------|--------------|----------------------------|
| 1  | 広島大学グローバル<br>キャリアデザインセンター・<br>特別研究員 | 国際研究機関       | 平成29年11月15日<br>～平成30年2月14日 |
| 2  | 広島大学グローバル<br>キャリアデザインセンター・<br>特別研究員 | 製造業(医薬品)     | 平成30年1月12日<br>～平成30年3月13日  |
| 3  | 広島大学グローバル<br>キャリアデザインセンター・<br>特別研究員 | 公益社団法人(研究機関) | 平成30年1月25日<br>～平成30年4月25日  |